

# 富山国際現代音楽祭 マスタークラス コンサート

6月23日(日曜日)

14:30~

於：県民会館ホール

発足記念コンサート

6月28日(金曜日)

18:30~

於：北日本新聞社コンサートホール

## マスタークラスプログラム

1. Tak Shun Chiu アパラチアの春 アーランコーブランド作曲
2. Tsu Ho Lam 室内管弦楽交響曲 no.1 シェーンベルグ作曲
3. Shiu-Wun Cheung オクタンドル エドガー ヴァレズ 作曲
4. Zhe Liu Dumbarton Oaks ストラヴィンスキー 作曲
5. Mildred Jin Yi アパラチアの春 アーランコーブランド 作曲
6. Jaco Wong 室内管弦交響曲 no.1 シェーンベルグ作曲

## マスタークラス 指揮者紹介 Tak Shun Chiu (Joshua) 香港



アパラチアの春は、アメリカのアパラチア山脈の荒野で結婚式を挙げる若い開拓者カップルの物語を描いたバレエです。世界が複雑になるにつれ、私たちはもっと前向きなエネルギーと希望を必要としています。今、私たちに必要なのは、この音楽だと思います。拍子が何度も変わるにもかかわらず、音楽の場面は多種多様で、指揮者がそれらをスムーズにつなぐのは、聴衆に物語を語るのと同じように、簡単ではありません。

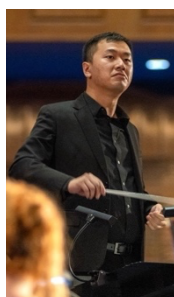
“Appalachian Spring is a ballet that tells the story of a young pioneer couple celebrating their wedding day in the American wilderness of the Appalachian Mountains. As this world become more complicated, we need more positive energy and hope, I think this is music is what we need right now.

Despite many changing meters, there are wide varieties of music scenes, it takes effort for conductors to connect them smoothly, like telling a story to the audience, which is not easy.

## Tsu Ho Lam 香港

シェーンベルクの室内交響曲は、調性とハーモニーから十二音体系へと移行する彼の初期の作曲期の終わりをとらえた素晴らしい作品です。この作品は、同時に動く旋律と対位法があるため、指揮とリハーサルが非常に難しく、やりがいのある作品です。

Schoenberg's Chamber Symphony is an amazing piece that captures the end of his first period of compositions as he transitions out of tonality and harmony to his twelve tone system. It is a very challenging yet rewarding piece to conduct and rehearse, especially because of the simultaneously moving lines and counterpoint in the piece!



## Shiu-Wun (Gordon) Cheung 香港

ヴァレーズが一貫した素材を使って音楽を作曲し、常に「音楽」の定義に挑戦する新しい響きをもたらしたことが気に入っています。私たちがその曲をリハーサルしたとき、楽器をつなげて独特の特徴を確立するのは困難でした。

I enjoy how Varèse composed the music with consistent materials and brought new sonorities, which always challenged the definition of 'music'. When we rehearsed the piece, it is difficult to connect the instruments together and

establish distinctive characters.

## Zhe Liu (Joe) 上海

ダンバートンオークスを選んだのは、まるで旅のようだからです。たくさんの美しい景色を体験し、たくさんの素敵な人々に出会いました。どのシーンもとても魅力的です。音楽が進化し続けるにつれて、新しい風景が次々と現れ、とても興味深いです。私の意見では、テンポの絶え間ない変化がこの曲を指揮する上で最大の課題です。正確に覚えるのはまだ難しいです。



I chose Dumbarton oaks because it is like a journey. I have experienced many beautiful scenery and met many lovely people. Every scene is very charming. As the music continues to evolve, new landscapes emerge one after another, which is very interesting. In my opinion, the constant change of tempo is the biggest challenge in conducting this piece. It is still difficult to remember accurately.



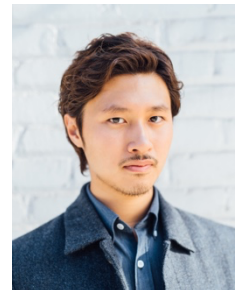
## Mildred Jin Yi (カリフォルニア)

富山市に集まった13人の素晴らしい音楽家たちとコープランドの「アパラチアの春の組曲」を演奏することは、非常に意義深いことです。この音楽の風景は、東と西、そして指揮者としての私の歩みの過去と現在を深く結びつけています。私の目標は、音楽家と聴衆がコープランドの音楽を通して私たちに与えてくれる一体感を体験できる空間を創り出すことです。

Performing Copland Appalachian Spring Suite with 13 phenomenal musicians gathered in the city of Toyama is incredibly meaningful. This musical landscape connects the east and west, and the past and present parts of my journey as a conductor quite profoundly. My goal is to lead by creating space for musicians and listeners to experience the unifying spirit Copland gifts us through his music.

## Jaco Wong (カリフォルニア)

シェーンベルクの室内交響曲第1番は、20世紀初頭の傑作で、古典的な交響曲のレパートリーの系譜を継承しながらも、無調性やその他の現代的な和声技法への扉を開きました。一見すると、この作品を理解するのは難しく思うかもしれませんが、よく聴くと、スケルツォと緩徐楽章を統合したソナタ形式のわかりやすい構造があることに気づきます。旋律のテーマも明確で、全体を通して何度も現れます。



Schoenberg's Chamber Symphony No.1 is a masterpiece of the early 20th century, opening the doors to atonality and other contemporary harmonic devices, while still continuing the lineage of the classical symphonic repertoire. At first glance, the work might seem challenging to make sense out of, but closer listening will make us realize there are straightforward structures of Sonata form with an integration of a Scherzo and Slow movement. The melodic themes are also clear and reappear multiple times throughout.

## About Maestro Neil Thomson



ニール・トムソンは1966年にロンドンに生まれ、英国王立音楽院でヴァイオリンとヴィオラを学び(1984-87)、英国王立音楽大学でノーマン・デル・マーに指揮を師事(1987-89)。彼は1989年のタングルウッドサマースクールの指揮クラスメンバーであり、その教師にはグスタフマイヤー小澤征爾、カートザンデルリングそしてレナードバーンスタインも含まれていました。現在はブラジルのゴイアス・フィルハーモニー管弦楽団の首席指揮者兼芸術監督を務めており、そのオーケストラの素早い発展や動的パフォーマンスそして幅広いレパートリーには高評がありました。特にブラジル音楽と現代音楽に重点を置いています。

2018年12月、オーケストラはメシアン代表作品「溪谷の峡谷」の南米初演を演奏しました。このオーケストラは成長を告げそしてブラジルのオーケストラ音楽の歴史を飾りました。ゴイアス・フィルハーモニー管弦楽団は最近、外務大臣からブラジル音楽への高い貢献を評価されリオ・ブランコ勲章(ブラジルのレジオン・ドヌール勲章に相当)を授与しています。彼は現在、クラウディオ・サントロの交響曲全14曲とホセ・シケイラ、エディノ・クリーガー、セサル・ゲラ・ペイシェの音楽をOFGとそしてアルメイダ・ブラド、フランシスコ・ミニョーネの曲をサンパルロ・シンフォニーオーケストラとともに録音するプロジェクトに取り組んでいる。サントロの曲をグルベンキアンオーケストラと室内音楽の為にロマンチックなブラジル音楽は英国室内管弦楽団とすべてナクソスの『ブラジル・エン・ンチェルト』のシリーズになる。

詳しくは [ticmf.com](http://ticmf.com) でご覧ください。

# 発足記念コンサート

## 第一部

- 1. Rainbow** Bryan Pezzone ピアノ
- 2. Synthesize** Simon Kanzler ラップトップインプロビゼーション
- 3. A Gathering.** Bryan Pezzone, Johnna Wu, Simon Kazler
- 4. 作曲コンクール最終ラウンド Dian Cang** Boya Liu 作曲  
Bryan Pezzone ピアノ
- 5. 作曲コンクール最終ラウンド Weaving for Violin solo** Chikage Imai 作曲  
Johnna Wu ヴァイオリン
- 6. 作曲コンクール最終ラウンド Wabi-Sabi** Mira Watanabe 作曲  
Bryan Pezzone ピアノ
- 7. 作曲コンクール最終ラウンド Reel of Silence** Alejandro Gomez 作曲  
Johnna Wu ヴァイオリン  
Bryan Pezzone ピアノ  
Simon Kanzler  
ラップトップインプロ
- 8. Passacalia** Ryuji Kubota 作曲  
Johnna Wu ヴァイオリン  
Bryan Pezzone ピアノ  
Hiroki Takahashi チェロ

## 第二部

### シンフォニエッタ富山 発足記念コンサート

指揮 マエストロニールトムソン

**1. E. quindi uscimmo a riverder le stelle**

そして僕たちは星を見るために出かけました

Stefano Sacci 作曲

**2. Fantasia Sul America**

Cloud Santoro 作曲

Flute : Yukiko Okuno

Basson : Shunsuke Omori

Clarinet : Risa Yamauchi

**3. Voice**

Toru Takemitsu 作曲

Flute : Yui Endo

**4. Dumbarton Oaks**

Igor Stravinsky 作曲

**5. Fantasia for Three songs from Toyama**

Chikako Iversen 作曲

## **Dian Cang** Boya Liu 作曲

ディアンカン（点蒼）は山の名前です。この山は雲南省大理ペー族自治州の中央に位置し、大理市の景勝地となっています。高くそびえ立つ峰々と美しい景観をもつこの山は、歴史的かつ文化的に深い意義を持っています。この作品はカンシャン（蒼山）の美しさを「描く」だけでなく、以下の理由によってその名前を題名にしています。

①この山は大理市の地理的なつながりを確立している。したがってこの作品では「大理市」を表しているため。

②ディアンカン（点蒼）というフレーズが人々の心に呼び起こす美的感覚を表現するため。

③カンシャン（蒼山）の雪景色は、大理市で有名な四季を表す「風花雪月」のひとつであることから、「ディアンカン（点蒼）」の名を題名とし四季の中の風、雪、そして月の景色を表すため。

大理郊外のペー族民謡である「大理風花」（写真1）と、大理の瓦舎地域の民謡である「猜花」（写真2）のメロディーを主題素材として使用しており、これらの曲から引用されたモチーフは、作品全体を通して流れ、独特な大理の「味わい」を作品に与えています。この作品は、「I.蒼山の雪、II.下関の風、III.洱海の月」の三部に分かれており、大理の風景を「描く」ことを目的としています。

## **Weaving for Violin solo** Chikage Imai 作曲

Weaving とは紡ぎ。文字通り音が重なり合ってゆく様が表現されている。

ヴァイオリンが一音一音サウンドを織り込んで深みを増し音色を重ねていく、ダイナミックさと繊細さ、バイオリンの持つ音と音の間の空間の深み、空間にある音、その楽器の持つ豊かな色彩の美しさを巧みに引き出した作品。

## **Wabi-Sabi** Mira Watanabe 作曲

わびさびは日本独特の美学です。「わび」は質素でシンプルなものが味わい深いという感覚を指し、「さび」は時間の経過を通して表現される美しさを指します。この作品は、わびとさびの各要素を私たちがどのように認識するかを探求しています。わびさびは、要素（わび）と時間（さび）に対する私たちの認識を反映しています。この作品は、1つのミニマリスト要素、つまりかろうじて聞こえる唯一の抑えられた音を中心に構成されています。この要素は、身体、魂、精神の3つのレベルで感じることができます。この要素に対する反応は多様です。これには、具体的で近い合理的な反応と、抽象的な憂鬱な空気の突風による遠い反応が含まれます。精神を表す作品の第3楽章は、感情的な葛藤のような対話に続いて、これらのさまざまな反応を調和させようとしています。

## Reel of Silence

Alejandro Gomez 作曲

”Reef of silence”は音楽的な光と影の相互作用や対比を通じて、みなさまを旅に誘います。この作品は、明確で決定論的な表現が並んでいる作品で、そのリズムやメロディーでみなさまを音楽に没入させます。表面上はシンプルではっきりとしています。隠れたところは複雑な構造になっています。作品が進んでいくにつれ、伝統的な構造原理がぼやけていき、より創造的で柔軟な解釈になっていきます。演奏者は創造的な過程の中で調和していき、確立された体制の中、自由でとらわれない音楽要素の道を切り開いていきます。ノートパソコンでの即興演奏は、ヴァイオリンとピアノを一体化させる要素として働きます。同時に、ヴァイオリンとピアノが創り出す音楽空間とも対照的です。すべての音が、作品の終わりに待つ静寂を求め、礁に激しく打ち寄せる波のように影響し合います。

## E. quindi uscimmo a riverder le stelle

Stefano Sacci 作曲

英語では、「そして私たちは再び星を見るために出かけました」と訳されます。

「そして、私たちは再び星を見るために出かけた」というフレーズは、ダンテ・アリギエーリの「神曲」、特に「インフェルノ」の最後のカントの有名な一節です。英語では、「そして、私たちは再び星を見るためにやって来た」と訳されることが多いです。それは、暗闇や困難から新たな希望や啓発の感覚へと抜け出すことを力強く表現したものです。

## Fantasia Sul America

Cloud Santoro 作曲

ファンタジアスルアメリカはブラジル現代音楽の作曲家クラウドサントーロ氏の作品で、ソロの組曲作品ですが作者はのちにソロに対するオーケストラの伴奏を作曲します。本日はこの作品の中から、フルート、バスーン、クラリネットの三作品をお送りいたします。フルートとクラリネットは同じモチーフで展開されますが、楽器が違うことによる違いを是非お楽しみいただきたい作品です。サントーロ氏の作品の多くはNexusからお楽しみいただけます。

## Passacalia

Ryuji Kubota 作曲

曲全体は題名の通りパッサカリアです。8部音符×7+7+7+11という4小節のバス主題が24回変奏されて、最後の変奏（練習番号25）で主題は5度上に移高されて溶けていきます。経過句（練習番号26・27）を経て、テーマはもとの高さで二回繰り返されて（練習番号28・29）おわります。7拍は様々に分割されます。（3+4）や（2+1+3+1）を反転して（1+3+1+2）、（3+1+2+1）とその反転の（1+2+1+3）、最後の11拍は本来は（3+4）+3だったりして、この中の一部の3+4を前記の分割と結合したり、という形です。楽器ごとにこれらの分割を組み合わせているので、複雑になっています。



## **Voice**

Toru Takemitsu 作曲

フルートソロ作品。題名の通りフルートの技巧を凝らしフルートの奏でる様々な音色を引き出し奏者のヴォイスがそこに乗り、展開される。繊細かつダイナミックなフルートの魅力が豊かに描かれている作品です。

## **Dumbarton Oaks**

Igor Stravinsky 作曲

チェンバーオーケストラ用のコンチェルト Eフラット。ワシントン D.C.のアメリカンディプロマットの Robert Woods Bliss と芸術作品のコレクターである Mildred Barnes Bliss の 13 年目の結婚記念日に 2 人のコミッションによってストラヴィンスキーが作曲した作品。明るく生き生きとした情感が伝わる作品。曲が進むにつれて展開されていくモチーフやチェンバーオーケストラのコンチェルト特有の個々の楽器のソロやアンサンブルの美しさをお楽しみにください。

## **Fantasia for Three songs from Toyama**

Chikako Iversen 作曲

富山を代表する三つの民謡のこきりこ節、麦や節、おわら節をチェンバーオーケストラ用に織り込んだ作品です。オーケストラの音色の美しさと三つの民謡の美しさのアンサンブルを音楽しみいただけます。故郷の富山でこうして音楽祭をお届けさせていただけます事心より感謝申し上げます。

## ソロイストたち

### **Johnna Wu** (ヨナ・ウー)

北米、ヨーロッパ、アジアを活動の場とするヴァイオリン奏者でクラシカルなレパートリーから現代音楽、即興演奏とレパートリーも幅広いヨナ・ウーはピンクノイズと呼ばれるハイブリッドの室内音楽団の創設者でありまたディレクターでもある。ヨナはコロンビア大学でアートと生物学、音楽理論と音楽史を学び、ジュリアード音楽院で修士号を取得。ベルリンのフルブライトの奨学生でもある。現在はニューヨーク市立大学のスタイトン島校と Lucerne Festival のスタッフをしながらニューヨーク市立大学にて博士号を取得中。

### **Bryan Pezzone** (ブライアン・ペッツォーン)

イーストマンカレッジを卒業後 1987 年よりコンサートやレコーディングなどロサンゼルスで舞台に活躍中。クラシカルから現代音楽また即興演奏とレパートリーも多岐にわたる。

*南カリフォルニアのオーケストラの大多数と共演, ロサンゼルスチェンバーオーケストラ,  
ロサンゼルスフィルハーモニックオーケストラ, ニューウエストシンフォニー  
パセディナシンフォニー, ロングビーチシンフォニー, ミューズ・イーク, ロサンゼルスマスター合唱団  
他多数*

ハリウッドボールオーケストラの発祥の 1991 年から 1999 年に渡り、主席ピアニストを務め、また 1987 年より 2000 年に渡りカルアーツと呼ばれる California Institute of Arts (カリフォルニア・インスティテュードオブ・アーツ) で鍵盤科のプログラムの教授またプログラム創設者として務める。2017 年の秋よりロサンゼルスカレッジオブミュージックで講師を務めている。

**Simon Kanzler** (サイモンカンツラー) はトップ即興演奏家、ビブラフォン奏者です。彼は即興演奏者として (元々はヴィブラフォンを使用し、近年は主に自作のモジュラーソフトウェア楽器を使用しています)、また作曲家としても多様な音楽的背景を持ち、ニューミュージックアンサンブル、ジャズバンド、即興演奏家など幅広いミュージシャンと仕事をしています。、ヘヴィメタルとロックミュージシャン。彼は最近、アコースティック楽器のサウンドを拡張し、ミュージシャンとコンピューターの間に対話を生み出す手段として、ライブエレクトロニクスに焦点を当てています。彼は、ニューヨークを拠点とするアンサンブル PinkNoise の共同創設者、共同芸術家、テクニカルディレクターであり、ライブコンピューター楽器で演奏し、多くのプロジェクトで緊密に協力してきました。彼の音楽は、S.E.M アンサンブル、テダリム アンサンブル、アンサンブルモザイク、モダンアートアンサンブルなどの新しい音楽グループによっても演奏されています。

## 奥野由紀子

桐朋学園大学音楽学部卒業。The Flute Studio(英国)修了。

第21回日本フルートコンベンションコンクールアルトフルート部門第1位。ブルガリア国立ソフィアフィルハーモニック管弦楽団コンチェルトマスタークラス最優秀賞。J-FOSフルートアンサンブルコンクール第1位並びに大賞。

ブルガリアソフィアフィル管弦楽団、ウクライナキーウ交響楽団等と協演。

現在、東京女子管弦楽団フルート奏者、アルトフルート・スペシャリスト。

2024年3月、アルトフルートのみで収録した2ndソロアルバム「Grace」をメジャーリリース。

## 遠藤優衣

福島県いわき市身。昭和音楽大学を経て、同大学院修士課程を修了。平成30年度昭和音楽大学昭和音楽大学短期大学部卒業演奏会、第46回フルートデビューリサイタルに推薦を受け出演。これまでにフルートを、市島徹、丸田悠太の各氏に師事。また、ヴァンサン・リュカ、ペーター＝ルーカス・グラーフ各氏のマスタークラスを受講。第42回霧島国際音楽祭2021において、工藤重典氏のマスタークラスを受講。成績優秀者として霧島国際音楽祭賞を受賞し、ガラ・コンサートに出演。テアトロ・ジューリオ・ショウワ・オーケストラ団員を経て、現在はミュージカル公演、国内のオーケストラや吹奏楽団への客演他、後進の指導にも力を注いでいる。

## 山内利沙

桐朋学園大学卒業。桐朋オーケストラアカデミー研修課程修了。クラリネットを船木喜行、三界秀実、鈴木良昭、藤井洋子の各氏に師事。プライベートでA.カルボナーレ、P.ベルトラミーニ、金子平の各氏に師事。音楽家のためのダルクローズリトミックを杉山智恵子氏に学ぶ。

ザルツブルク・モーツァルト国際室内楽コンクール2019第3位。

パリ・エコールノルマル音楽院副学長P.ジグマノフスキー氏と共演。2017年よりRisaxRipaと題したリサイタル活動を始め、第5回は2024年7月31日に開催予定。

オーケストラ、室内楽、ソロ、文化庁芸術家派遣事業などで活動する傍ら、後進の育成に努める。

## 大森俊輔

桐朋学園大学音楽学部卒業、同研究科修了。渡独しマンハイム国立音楽舞台芸術大学大学院、ニュルンベルク音楽大学大学院修了。ニュルンベルク、モーツァルト協会主催室内楽コンクールで2年連続、異なるアンサンブルで入賞。ユーディ・メニューイン財団「Live Music Now」の奨学生として、ドイツ各地で室内楽のコンサートを公演。2018年にBad Reichenhaller Philharmonikerとウェーバーのファゴット協奏曲を共演。2013年よりMannheimer Philharmoniker定期メンバー。

## 高橋 裕紀

石川県出身。桐朋学園大学卒業、同研究科修了、桐朋オーケストラアカデミー研修課程修了。

いしかわミュージックアカデミーや別府アルゲリッチ音楽祭などに参加し、公演する。

2009年韓国・仁川(インチョン)にてチョン・ミョンフン氏が音楽監督をつとめるアジア・パシフィック・オーケストラ・アカデミーを受講し、オペラ「ラ・ボエーム」を仁川と富山で公演。国内オーケストラのエキストラ、宝塚歌劇団、オペラ、ミュージカルなどで活躍する。

これまでに、チェロを参納純三、高田剛志、上村昇、毛利伯郎、音川健二の各氏に師事。

## シンフォニア富山 マスタークラスメンバー

Flute 遠藤優衣 緒方里珠、  
Oboe 炭崎友絵、今井絢子、English Horn 寺脇万葉、  
Clarinet 平石早良、高間健吾（賛助団員）、浅見元晴（賛助団員）  
Bassoon 大森俊輔 丸山佳織  
Horn 大下弥来、比嘉美月、  
Trumpet 三浦彩夏  
Trombone 松永遼  
Violin 江頭摩耶 森本千絵 野上純 椎名慧 宇佐美優  
Viola 長谷川雪音、志村恵理子  
Cello 青山茉莉花 舘野真梨子  
Contra Bass 西村翔平 清沢健生（賛助団員）

## シンフォニア富山 発足記念コンサートメンバー

Flute 奥野由紀子、遠藤優衣 緒方里珠、西原奏子  
Oboe ・ English Horn 寺脇万葉、  
Clarinet 山内利紗、若林悠人  
Bassoon 大森俊輔  
Horn 大下弥来、比嘉美月、築山みか  
Trumpet 三浦彩夏  
Trombone 廣瀬大悟 村上龍大  
Violin 森本千絵 野上純 椎名慧 草深聖依子 竹村美香  
Viola 猿渡美穂子 西尾結花 小林日和  
Cello 高橋裕紀 有馬憧  
Contra Bass 西村翔平 瀬戸慎之介